

大月町 事前復興 まちづくり かわら版

大 浦

第 2 号

昨年度に引き続き、令和7年度
第2回ワークショップが開催されました。

2025年7月2日（水）14:00～16:00、大浦憩いの家にて事前復興まちづくり計画に向けた地区ワークショップが開催されました。

第2回地区ワークショップでは、「南海トラフ巨大地震が発生した場合」を想像しながら、地区としての復興の方向性や、被災後の多様な住まい方に関する意見交換を行いました。

【地区としての復興の方向性】

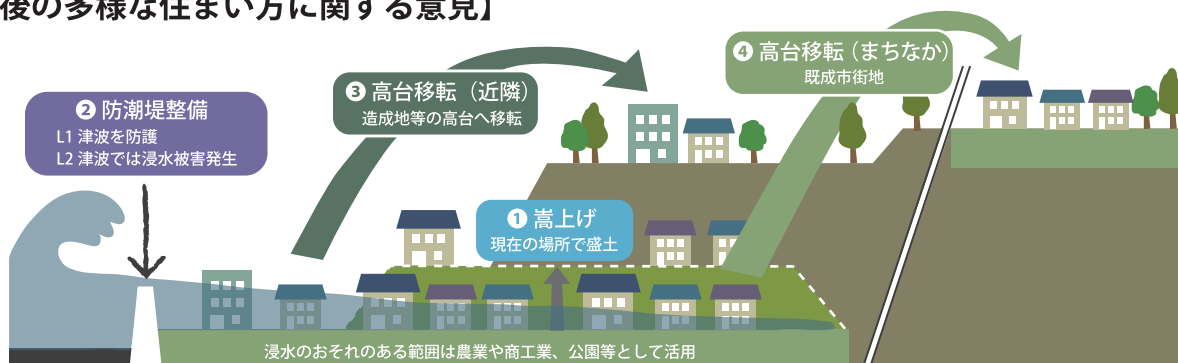
- つながりを大事にみんなで元気に生きる
- 現実を見つめて高台へ集団移転
- みんなで安全なところに住む！
- 海業・観光をできる人が推す！

- ・つながりを大事に
- ・元通りになるなら元通りにして欲しい
- ・年金で暮らせるまちだたらいいな

- ・元に戻せるとは思えん
- ・元に戻してもまた100年後にも津波がくるかもしれん

- ・子どもや親戚を頼って出ていくな
- ・仮設住宅に入るのが現実的

【被災後の多様な住まい方に関する意見】



居住の制限

浸水のおそれのある区域は居住の制限を検討

※範囲は L1 対応の堤防整備等を踏まえて津波シミュレーションの結果を踏まえて設定

① 嵩上げ

- ・お金と時間
- ・地元におれる
- ・現地で再建できる人は（こだわる人は）する。

第2希望

- ・ざまに嵩上げせんといかんき、不可能

② 防潮堤整備

- ・堤防が高かったら安全とはかぎらん
- ・海が見えんなる

③ 高台移転（近隣）

- ・どうしてもなければ、子どものいる安全なところへ行く
- ・土地の持ち主さんとの話し合いが大変
- ・持ち主が不明
- ・切土の費用も大変やろう

④ 高台移転（まちなか）

- ・便利になる
- ・病院、お店、郵便局がある
- ・一番現実的
- ・弘見にみんなで住む
- ・弘見一択（亀尾や郷が良いのでは？）
- ・畑ができない

第1希望

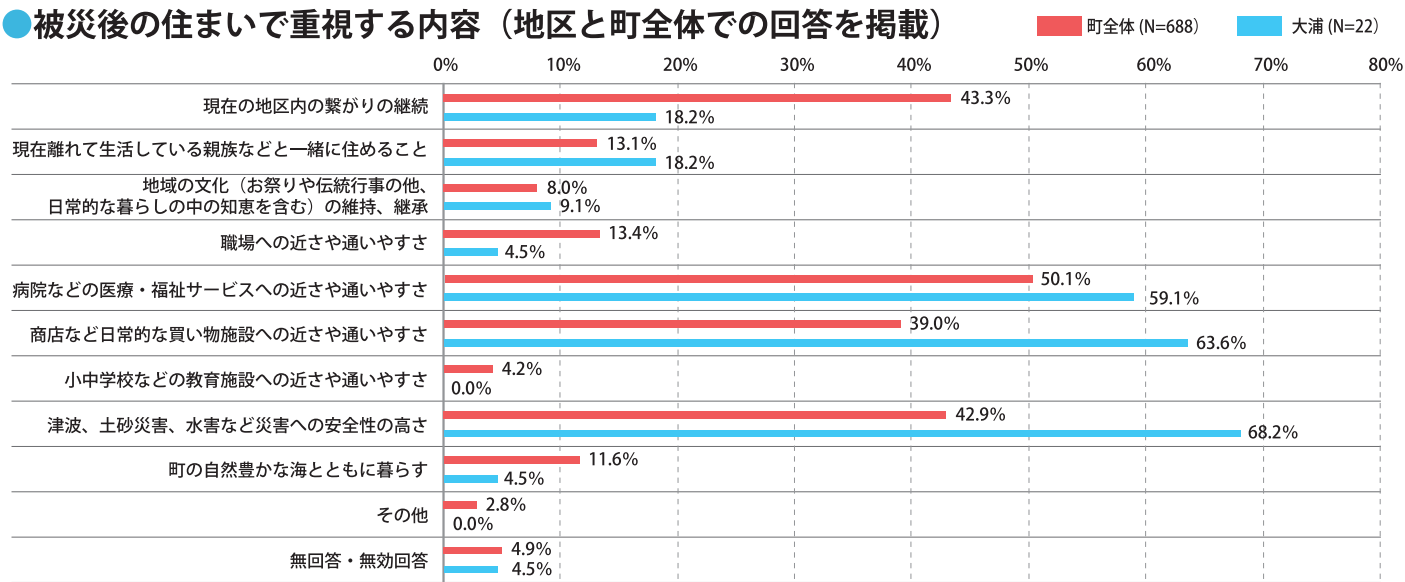
- ・事前集団移転も検討したい
- ・早く発災前に進める

- ・地区のみんなとの合意が必要
- ・なるべく大浦地区の人で集まった場所で生活したい
- ・集団で移転できる土地・公営住宅を弘見に整備
- ・弘見に畑を作る場所があると良い

大月町事前復興アンケート調査を実施しました。ご協力ありがとうございました！

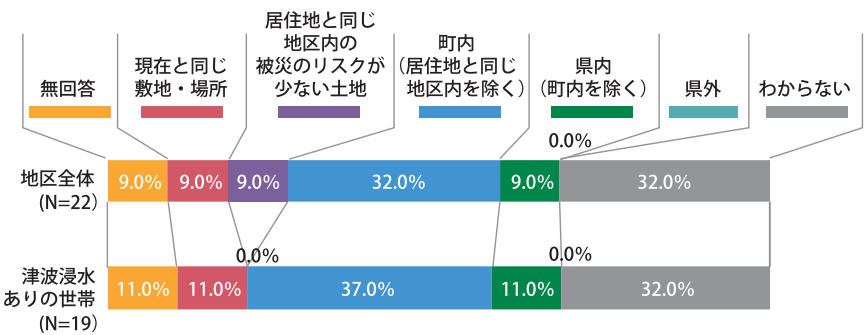
2025 年 8 月 25 日までの2週間、全町民の方を対象に、事前復興まちづくりに関するアンケート調査を実施しました。一部ではありますが、被災後の住まい方に関する質問を中心に地区の回答結果について、共有させていただきます。

●被災後の住まいで重視する内容（地区と町全体での回答を掲載）



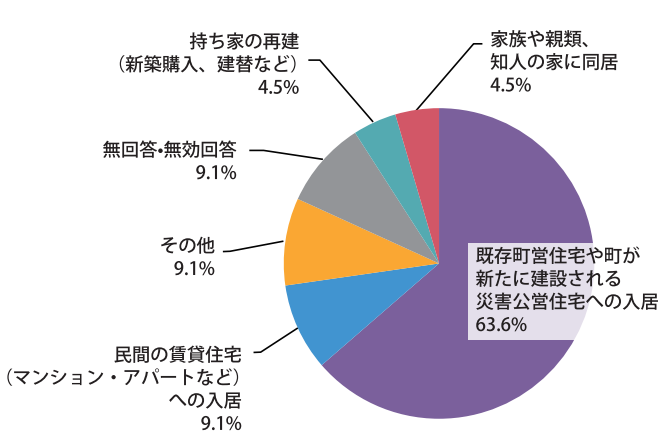
●被災後の住まいで重視する内容について、大月町全体では「病院などの医療・福祉サービスへの近さや通いやすさ」が 50.1% と最も多く、次いで「現在の地区内の繋がりの継続」が 43.3% となった。大浦地区では「津波、土砂災害、水害など災害への安全性の高さ」が 68.2% が最も多く、次いで「商店など日常的な買い物施設への近さや通いやすさ」の 63.6% となった。

●被災後、生活を再建する際に望ましい住まいの場所



●被災後、生活を再建する際に望ましい住まいの場所については、大浦地区全体では「町内（居住地と同じ地区内を除く）」と「わからない」が 32.0% と最も多く、津波浸水の予想される世帯では「町内（居住地と同じ地区内を除く）」が 37.0%、次いで「わからない」が 32.0% となった。

●復興の際の住まいの形態 (N=22)



●復興の際の住まいの形態については、「既存町営住宅や町が新たに建設される災害公営住宅への入居」が 63.6% と最も高く、次いで「民間の賃貸住宅への入居」、「その他」、「無回答、無効回答」とがそれぞれ 9.1% となった。